

## 「キリストの栄光の現れを待ち望む」

2019年05月09日

テトスへの手紙 2章11節～15節 実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。その恵みは、わたしたちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように教え、また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとして清めるためだったのです。十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい。だれにも侮られてはなりません。

「著者」は、互いに信仰と愛と忍耐をもって健全な教えを守りなさい、そうすることが神の言葉を汚さないことであると勧めた。そして、「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」と言う。神が主イエスを遣わし、全ての人々に救いをもたらす恵みが世に出現した。そして、この恵みは二つのことを教えていると言う。一つは「わたしたちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活する」ことを教える。この世の利益を求めのではなく、信仰に基づき、節制と品位を保って生きることである。二つ目は、「祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望む」ことを教える。全き救いを与えてくださる祝福に満ちた希望、即ち、イエス・キリストの再臨による栄光の現れを待ち望むことである。テトス書の倫理、道徳は常識的で、平板であるという批判は避けられないが、イエス・キリストの再臨に裏打ちされていることは、十分に評価しなければならないことである。

「著者」は更に、「キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとして清めるためだったのです」と、勧めの根拠を書いている。イエス・キリストが御自分の体を十字架に献げられたのは、人間をあらゆる罪から贖い出し、良い行いを熱心にする民を御自分のものとして清めるためであった。罪を贖い、救い出すということは、あるがままを「よし」とし、義とすることであるが、それは「あるがまま」に留まることではない。「義」とされ「新しい人」になった者が善い行いをするようになるためである。パウロは、ガラテヤ書5章13節、14節で、下記のように書いている。「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、『隣人を自分のように愛しなさい』という一句によって全うされるからです。」罪赦され、解放された自由は現状に留まることや放縦ではなく、愛し合うことに向かう新しい喜びの倫理を生み出すのである。

「著者」はテトスに、「十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい」と言い、「だれにも侮られてはなりません」と戒めている。「侮る」とは、広辞苑では、「相手が劣っていると決め込む。見くびる」と説明している。誰からも見くびられるなどという助言は、神の権威に従うものの誇りである。パウロは「思い違いをしてはいけません。神は人から侮られることはありません（ガラテヤ6:7）」と書いている。侮ることができない神の言葉の宣教者である自覚、自負を持つよう促しているであろう。